

“ウイルスとワクチンの戦い” ~イングランド¹におけるロックダウン緩和 第2ステージ開始と随伴する感染抑制策~ 2021年4月12日

関屋 宏彦*

イースター明けの4月上旬、陽春の気候が一転し、ロンドンでは雪が散らつく寒さが身に染みた。日本では、緊急事態宣言解除後から間もなく、東京都を含む3都府県にも、「蔓延防止等重点措置」を追加適用するとのニュースを聞き、逆戻りの辛さを共感しながら、イギリスのコロナとの戦いの現状を報告したい。

イングランドにおける「ロックダウン緩和ロードマップ」の第2ステージへの移行

ジョンソン首相は、4月5日、12日から実施するロックダウン緩和の第2ステージへの移行に先立ち、市民に向け、判断の前提になる下記の4条件の現状とともに、その緩和措置について説明を行った。

- ① **ワクチン普及状況**：4月第1週現在、第1回接種を全人口の48%、第2回接種を同9%に普及。今後、予定通り6月末までに、対象となる18歳以上の成人全体(53百万人)への第1回接種を完了する計画。
- ② **感染抑制状況**：新規感染者数/日 2,763人(1月のピーク、70千人/日)、死者数/日 45人(同1,600人/日)、と劇的に減少、ロックダウンとワクチン普及の相乗効果が出ており、ドイツ、フランスなどヨーロッパ主要国が、イギリスの変異種などにより感染が急増しているのに対し、際立つ好成績をあげている。
- ③ **医療機関への負担抑制**：入院患者数 3,536人(1月ピーク、37千人)と大幅に改善。
- ④ **変異種抑制**：検査体制強化や海外渡航制限・入国管理の強化を実施中。

緩和の第2ステージでは、全ての店舗、理髪・美容院、図書館、ジム・プールなどの再開の他、パブ・レストランなどの戸外での営業再開が認められる。

2月22日に発表した「ロックダウン緩和のロードマップ」では、上記の4条件をチェックのうえ、5月17日から第3ステージに移行、6月21日から規制をほぼ解除する第4ステージに移行することを目標としている。

ジョンソン首相の慎重姿勢

上記のようなワクチン普及計画の順調な実施やコロナ感染抑制状況にも拘わらず、首相は、身内の保守党からも批判されるほど、将来の感染拡大リスクに備える慎重姿勢を崩さなかった。その背景には、どのような事情があるのだろうか？

ジョンソン首相は、3月23日に、最初に実施したロックダウン開始から1周年にあたり、累計12万人にのぼる新型コロナ犠牲者を悼み、一般市民にも呼びかけ、正午に1分間の黙とうを捧げて追悼を行うとともに、深刻な事態を招いたことを陳謝した。昨年3月の初動段階で、新型コロナの脅威と感染スピードへの認識不足によって、対応が遅れたことが第1次の医療崩壊危機を招いた。

更に、第2次ロックダウンを解除した12月以降、1月中旬にかけて招いた感染拡大第3波の主因は、12月初めに確認された感染力の強いイギリス型新変異種が主因と言われ、1日あたりの死者数は12月下旬から1月初旬にかけて最高記録を更新、再度、医療崩壊危機に直面した。こうした過去2回のロックダウン解除の失敗を踏まえ、今次のロックダウン解除にあたっては、何としても第4波を防ごうとの、首相始め政府関係者の強い決意がうかがわれる。なお、イギリスの「緊急時科学諮問グループ UK Government Scientific Advisory Group for Emergencies (SAGE)」は、6

* 在ロンドン、公益財団法人都市化研究公室 監事

¹ イギリスでは、感染抑制対策は4つのNationに権限移譲され、イングランドは中央政府が直轄。

月の第4ステージでロックダウンを解除後、夏から冬にかけて第4波を招くリスクが高い、との警告を行っており、今後の感染状況の推移を注意深く見守る必要を強調した。

AstraZeneca (AZ) ワクチンの安全性について²

AZ ワクチン接種後の血栓症発症報告

去る3月11日に、ノルウェーおよびデンマーク政府が、AZ ワクチン接種後に血小板減少に伴う血栓症を発症したケースが報告されたのを受け、その接種を暫定的に停止して以降、その他の多数のEU諸国でも、一時停止または禁止とし、AZの安全性に関する懸念が拡がり始めた。

イギリスの医薬品および保健商品規制庁 (The Medicines and Healthcare Products Regulatory Agency: MHRA) は、イギリスでAZ ワクチンを2千万回接種後、3月31日までに下記のような報告があったことを発表した。

血栓症発症者 79 人 (うち女性 51 人)	うち脳静脈血栓症発症者 44 人
同上、死者 19 人 (うち女性 13 人) 50 歳以上 8 人、30~49 歳 8 人、29 歳以下 3 人	同上、死者 14 人

また、EU 医薬品庁 (The EU Medicines Agency: EMA) によると、EU および UK で AZ ワクチンを 25 百万回接種後、脳静脈血栓症 62 人および臓器静脈血栓症 24 人、合計 86 人のうち、死者は 18 人の報告あり。発症者の大半は、59 歳以下の女性。

AZ ワクチンと血栓症の因果関係

4月7日、MHRA は、AZ の接種後、ごく稀なケースだが、血栓症を発症する可能性があることを認め、血栓症を発症するリスクの高い人は十分注意する必要があると注意喚起し、引き続きその因果関係について分析を進めている。

国民保健サービス(National Health Service)のコロナワクチン接種ガイドによると、一般的に血

栓症を生じやすい人の例として、長期の入院による運動不足、肥満、喫煙、避妊ピルの使用、妊娠中または出産直後の婦人などがリストアップされ、懸念があれば、接種前に主治医に相談するよう勧告している。EU 保健当局でも、従来より経口ホルモン避妊薬によって脳静脈血栓症を生ずるリスクを指摘している。

今後の AZ ワクチンの接種に関する当局の公式見解(4月11日現在)

上記のような問題点は多々あるものの、4月11日現在、イギリス、EU の医薬品規制当局および WHO は、AZ ワクチンの普及によるベネフィットは発生し得るリスクを大幅に上回るため、引き続き普及を進めるべき、との見解を発表している。

イギリス政府は当初の予定通り、Pfizer, AZ を柱に、初回に副反応があった人を除き、NHS が指定した同一のワクチンを 2 回接種する方針であるが、4月7日、保健省は 29 歳以下の成人には、Pfizer または Moderna ワクチン(4月7日に接種開始)も選択可能とする措置を発表した。

なお、EU の多くの国は、AZ ワクチンを一時使用停止していたが、年齢制限などの制限付きで復活した国も多い(例えば、ドイツは 60 歳以上および優先順位の高いグループの人々に限定して使用、フランスは 55 歳以上の人々に限定して使用)。

ロックダウン解除のステージが進むにつれ、今後、コロナワクチン普及による感染抑止への期待は大きいものがあり、その普及計画達成の成否は、死亡リスクの低い若年層への普及が鍵を握っている。それだけに、ハンコック保健相が公約する政府からの独立組織による副反応の更なる事実関係の解明と透明性のある丁寧な説明が、若年層のワクチンへの信頼を確保する鍵となろう。

(以上)

² 情報出所：イギリス政府のコロナ規制緩和方針等 <http://www.gov.uk/coronavirus-taxon> イギリス保健省傘下の国民保健サービスのワクチン接種ガイドと血栓症特掲記事 <http://www.nhs.uk/covid-vaccination> および The Guardian 2021/4/7 記事その他